

わが家のアイドル

西本郷にお住まいの
中村 一智さん・莉奈さんの

長男 **真那仁**くん (1歳7か月)

長女 **姫陽**ちゃん (0歳6か月)

妹思いの優しい真那仁と
いつもニコニコ笑顔の姫陽
とっても仲良し。
わが家のアイドルです！



みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。



旧市街地の神社や寺院には、人々が願いを込めて奉納・建立した多くの石造物が伝えられています。

町人の願い

下田町や岡方村の住人に広く信仰された下田八幡神社の境内には、江戸時代に各町が奉納した石灯籠が残っています。文化九年(一八一二)、同十二年には池之町や岡方村が御神灯を、続く文政四年(一八二一)には町店町が秋葉山常夜灯を奉納しています。文化年間は、4回もの大火災が立て続けに下田町を襲った受難の時期であり、火伏への願いも込めて灯籠に町名を刻み、町内安全を祈ったのでしよう。

航海の安全

ペリー上陸記念碑の傍にある弁天妙見宮には一対の灯籠があります。明治七年(一八七四)に撰津国樽廻船仲間・

灘酒造組合(兵庫県灘地方、清酒の産地)が用船の遭難除けと乗組員の救助を祈って寄進したものです。花崗岩製の整った灯籠は、下田沖が難所だったことや、当時、下田が船乗り達にとって重要な港だったことを物語っています。

幼い命の供養

明治三四年(一九〇一)の天王さん祭りの夜、軽業小屋で火災がありました。石油ランプが崩れ落ち、大火傷を負った十二人の児童が犠牲となりました。これを憐れんだ町民達は浄財を募り供養塔を建立しました。地蔵を載せたこの石塔は、今も稲田寺の境内で子ども達の冥福を祈り続けています。

このほかにも旧町の社寺には、安政津波の犠牲者を弔った津波塚や、廻船問屋衆が神社に奉納した獅子・狛犬、船頭仲間が奉献した玉垣(神社の垣根、船乗り達が力自慢を競った力石など、海運や災害に関わる石造物が残されており、かつて港町として繁栄した町の記憶と災害の歴史を今に伝えていきます。

問合せ先 生涯学習課

☎5055



妙見宮の灯籠



「町之池」=池之町



町店町



「甲寄須」=須崎町



町内安全



稲田寺の供養塔



「広報しもだ」は再生紙を使用しています

伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしましょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

